

## 本邦 LCC 初！エレクトロニック・フライト・バッグを利用した運航をスタート ～最先端テクノロジーの活用による運航品質の向上を実現～

- ・ EFB\*<sup>1</sup>承認の取得は本邦LCC初
- ・ 迅速な運航情報の配信によるさらなる安全運航の実現
- ・ 機体の重量軽減で、燃費の向上とCO<sub>2</sub>排出量を削減し、環境にも配慮
- ・ 離着陸性能計算ソフトにより運航効率を最適化

Peach Aviation株式会社(以下:Peach、代表取締役CEO:井上 慎一)は、エレクトロニック・フライト・バッグ(以下:EFB\*<sup>1</sup>)使用に関する承認を航空局から取得したことから本日より、Airbus S.A.S.(以下:エアバス社)が提供する航空機性能計算機能「FlySmart with Airbus」およびJeppesen社(以下:ジェップセン社)が提供する電子航空図機能「Jeppesen Flite Deck Pro」を搭載したiPad\*<sup>2</sup>を操縦室に導入し、操縦士が機内で使用する紙マニュアルをデジタル化することを発表しました。



EFB\*<sup>1</sup>アプリ「FlySmart with Airbus」および「Jeppesen Flite Deck Pro」は、iPad\*<sup>2</sup>などのタブレット端末用として開発されたもので、Peachではこれまで、エアバス社、ジェップセン社、ソフトバンク株式会社の協力のもと、iPad\*<sup>2</sup>を使用端末とした本格運用に向けて準備をしてきました。本アプリおよび端末の管理体制の策定や、乗員の訓練などを経て、このたび航空局の承認を得たことから評価運用を開始する運びとなりました。EFB\*<sup>1</sup>の導入は本邦LCCとして初となります。

Peachでは、EFB\*<sup>1</sup>を活用し、操縦室内で使用する紙のマニュアル類を電子化し、マニュアルの変更をタブレット上で迅速に周知することで、さらなる安全運航を目指します。また、電子化による機体重量軽減から、燃費の向上とCO<sub>2</sub>排出量削減も見込まれるためほか、離着陸時の機体性能をコンピューター計算することにより、運航効率が最適化されます。

その他、地上においては、本iPad\*<sup>2</sup>を経由して、ウェザーニューズ社提供「FOSTER NEXTGEN」による最新の航空気象情報を運航乗員にリアルタイムに配信し、安全運航に活用します。

Peachは、今後も積極的な最先端テクノロジーの導入などを通じ、より安全で高品質なオペレーションを目指してまいります。

\*<sup>1</sup> EFBは、操縦士向けのマニュアルをデジタル化させたアプリと電子端末の総称です。

\*<sup>2</sup> iPadはApple Inc.の商標です。